

東京社会福祉士会 ニュース



臨時増刊号
July 2022

ついにリアル開催！ 第30回日本社会福祉士会全国大会・ 社会福祉士学会東京大会が開会！

第30回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会東京大会が7月2日～3日にわたり、東京都江東区のホテルイースト21東京で開催された。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受け、2020年の高知大会は中止、昨年の山形大会はリモートのみで開催とされてきたが、ついに3年越しの「リアル開催」が実現。感染予防対策を徹底した会場に、満員御礼となる800人超のソーシャルワーカーが来場し、リモート参加とあわせて合計1502人*が「ソーシャルワークを紡ぐ」(注：本大会のテーマ)現場に立ち会った！ (*大会参加申込者数)



Contents

- ついにリアル開催！…………… 1
- 「ぜひ共有・連携の機会に」——開会式…………… 2
- 「社会福祉士も、新たなステージに」——行政講演…………… 2
- 「生きづらさ」の背景にある規範意識——基調講演…………… 3
- 4団体、「協働の取組み」に合意——シンポジウム…………… 3
- みなで紡ぐソーシャルワーク——分科会…………… 4
- 意思決定支援に必要な「5条件」とは——記念講演…………… 4
- 次回(2023年)は大分で開催！…………… 4

さらに詳しい内容は、東京社会福祉士会ニュース 8月号で特集します。特集記事は他県士会の皆様も当会HPでご覧になれます。

● 「ぜひ共有・連携の機会に」——開会式

第30回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会東京大会実行委員長の新堀季之・東京社会福祉士会会長が歓迎の言葉を述べ、日本社会福祉士会の西島善久会長が主催者挨拶を行った。来賓として、厚生労働省社会・援護局の川又竹男局長／代理＝同省同局福祉基盤課福祉人材確保対策室：佐々木忠信室長補佐、東京都の小池百合子都知事／代理＝福祉保健局：雲田孝司次長、東京都江東区の上野孝明区長、東京都社会福祉協議会の木村恵司会長／代理＝横山宏副会長からご祝辞を頂いた。



東京社会福祉士会・新堀季之会長

「ようこそ東京へ！久しぶりに全国のソーシャルワーカーが地域や分野を越えて知見を共有し、交流を深める大事な機会。全力でお支えしたい」



日本社会福祉士会・西島善久会長

「本大会を通して全国さまざまな実践を共有し、ソーシャルワーカー同士の連携を強め、改めて私たちの役割を確認していきたい」

● 「社会福祉士も、新たなステージに」——行政講演

厚生労働省社会・援護局総務課の道念由紀社会福祉専門官が「これからの社会福祉士への期待～地域共生社会の実現を推進するソーシャルワーク専門職としての、社会福祉士の質的量的拡充に向けて」と題して講演。令和6年度から実施予定の「社会福祉士国家試験の見直し」や、地域共生社会実現へ向けた施策の動向・展望について詳細に



説明したうえで、「いま、わが国の社会は大きな変革期にある。時代はソーシャルワークを求めている。ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の皆さんにおかれても、資格制度創設以来35年の歴史を糧に、新たなステージに立つことが社会から求められている」とし、「わが国の社会福祉の増進に向けて、お力添えをお願いしたい」と協力を呼びかけた。

※7月末まで全プログラムをオンデマンドでご視聴いただけます（今からでも視聴申込可）。大会ページからどうぞ。

● 「生きづらさ」の背景にある規範意識——基調講演

法政大学現代福祉学部の高良麻子教授が、「すべての人びとが Well-being を実現できる社会への変革に向けたソーシャルワーク」という演題で講演。高良教授は、日本社会における今日的な「生きづらさ」の背景として、「現実社会の実態」と「規範意識・価値観」の間の“ずれ”を指摘。旧来の規範に当てはまらないとされる人が偏見・抑圧・差別・排除の対象となり、セーフティネット



の面でも「制度からの排除」「縦割りの弊害」「再分配の機能不全」によって取り残される結果となっているとして、ソーシャルワークはそこに働きかけていく必要があると訴えた。その際、何に注目すればよいかについて、**5つの切り口・アプローチ**を提示。ソーシャルワーカー一人ひとりが少しずつでも確実に・着実に実行していくことが、「すべての人びとが Well-being を実現できる社会」につながるとして、「みんなで一緒に、ソーシャルワークを紡いでいきましょう」と呼びかけた。

● 4 団体、「協働の取組み」に合意——シンポジウム

1日目の締めくくりとなるシンポジウムは、ソーシャルワーク4団体のトップが初めて一堂に会する記念すべきセッション。日本ソーシャルワーカー協会の保良昌徳会長、日本精神保健福祉士協会の田村綾子会長、日本医療ソーシャルワーカー協会の野口百香会長、日本社会福祉士会の西島善久会長が、それぞれ自団体の拠って立つ背景と“強み”を開陳し合い、4団体が協働することによってして何ができるか、どのような可能性があるかを議論。「**3つの目標**」を打ち立てることで合意し、今後、ソーシャルワーク4団体によって構成する連絡会＝「日本ソーシャルワーカー連盟」を協働の拠点として取り組んでいく段取りについて確認した。



※7月末まで全プログラムをオンデマンドでご視聴いただけます（今からでも視聴申込可）。大会ページからどうぞ。

●みなで紡ぐソーシャルワーク——分科会

2日目午前中は分科会。権利擁護・生活構造・相談援助・地域支援・福祉経営・実践研究の6分野における口述発表と、自主企画シンポジウム、ポスター発表、東京特別分科会が実施され、第一線に立つ社会福祉士による最新の知見が共有された。



●意思決定支援に必要な「5条件」とは——記念講演

2日目の午後は、東京大学先端科学技術研究センターの熊谷晋一郎准教授が、「自立とは何か—生きることを支えるソーシャルワークへの期待」という演題で講演。意思決定支援について「認知障害を持った人々が平等に社会参加できるように、意思決定の手助けをすること」と定義したうえで、適切な支援にあたって必要となる「**5つの条件**」を詳しく掘り下げて解説した。



●次回（2023年）は大分県で開催！

2日間の締め括り、閉会式。日本社会福祉士会の西島善久会長による「大会総括報告」、次期開催県士会への「引継ぎ式」、大会実行委員長による「閉会の辞」で閉幕した。



大会を振り返って
講評する西島会長



次回開催県・大分社会福祉士会によるPR動画が会場で見られた



新旧の大会実行委員長による「記念品交換の儀」

※7月末まで全プログラムをオンデマンドでご視聴いただけます（今からでも視聴申込可）。大会ページからどうぞ。

●おまけ… (★_-)b



総合司会の2人。事務局の俵真由美さん(右)と、江東社会福祉士会会長の間庭尚之さん(左)。「本場仕込み」の技術と度胸は、この業界で天下無双。



受付開始30分前。全国からお越しのご来場者を「最高のお・も・て・な・し」でお迎えしようと腕まくりするスタッフの面々(半袖ですが)。



最寄り駅から会場まで徒歩10分。ご来場者が炎天下で迷うことのないよう、体感温度40℃超の路傍に立つ屈強のスタッフたち。水飲んで！



会場入りした4団体会長の皆さんをバシヤリ。シンポジウムのコーディネータ・高良さん(左)。嵐の前の静けさ？いえ冗談です…

——最後に。大会スタッフ一同より——



ご参加いただき、心から御礼を申し上げます。m(_ _)m